



藤川球児

REAL  
HERO

22

KYUJI FUJIKAWA

REAL  
DREAM

# 球児のストレート。

ウルトラマンのスペシウム光線のような必殺技

かつてこんなピッチャーがいただろうか？

殆どが1点差か同点のプレッシャーが最大限にかかる場面で登板し、相手打者が待っているストレートを大胆に投げ込む。打者はその待っていたストレートを強振するが当たらない。そして投げれば投げる程威力を増す球児のストレート。地面から浮き上がるように胸元へ伸びる「魔球」で、強打者を次々と打ち取って行く。対戦した選手が口々に言う。「来るとわかっていても打てない」それが球児のストレートである。

試合の終盤になると待ち望んだヒーローがマウンドに現れる。そして躍動感あふれるフォームから繰り出される球児のストレートに、文字どおりキリキリ舞いする打者との対戦に、観客は狂喜乱舞し声援を送る。あたかも悪者モンスターに苦しめられている人類のピンチにさっそうと現れ、得意の必殺技でモンスターをやっつける正義の味方のように。

そんなありえないようなヒーロー像を体現する球児は言う。「誰もが藤川球児になれるチャンスがあります。」球児のストレートは、努力と苦難の果

てに見つけたフォームから繰り出されるものであり、誰もがこのストレートを投げられる可能性があるのだ。「僕がポテンシャルで人より優れているところは何もない。筋力も柔軟性も平均値。体幹を鍛えたからという人もいるけど、完璧にやったかと言われれば自信がない」そしてこう続ける「自分一人では絶対にやってはいけない。自分よりすごい面を持っている人を、自分から探して動き出すことが大事だと思う」藤川投手は幾度となく困難にぶつかりながらも、沢山の人の意見を求め、自分に対する客観性を持ちながら、常に進化してきたのである。彼のそんな姿勢に共感し、球児の投球スタイルをサポートするのはザナックス・トラストシリーズのグラブとスパイク。グラブは藤川投手の微細に渡るオーダーにクラブトマンが、一切の妥協なく応えて作り上げた渾身の藤川モデル。絶妙にぴったり手にフィットして、疲れがないのが気に入っていると。また、スパイクはプレートより7足長の足幅から踏み切られるという独特の投球フォームを支えるため、超軽量のカンガルーレザーが使われている。





## 夢を語ることは、決して恥ずかしいことではない。

過去の自分の言ったことが現実になるという不思議。

父親の影響で小学3年生から野球を始めた球児は、15歳の時にプロ野球選手になるという夢を持ち、公言してきたという。当時「将来の夢は?」と聞かれても、「プロ野球選手になりたい」と、なかなか口に出せなかった少年が、勇気を出してこの夢に挑戦する意思を固め、一步を踏み出したときから「球児のストレート伝説」は始まった。それは「自分自身が夢を持たなくて、どうして人に夢を与える事ができるでしょう」という思いから。野球を通して藤川投手が伝えたいのは「夢を語ることは決して恥ずかしいことではない」ということ。夢を公言することによって、自分の中で未来へ向かうレールを敷くことができ、それを励みに頑張ってきた結果、過去の自分が言ったことが現実になるという不思議をいくつも体験してきたから。「自分を信じる心“自信”を持つことは、もの凄く大事なことです。どこかで勇気を出して踏み切って、未来へのレールを敷くことによって、

自分自身が進むべき道は明確になる。目の前にレールがあることで、そのレールを踏み外さないように、時には歩幅を緩めたり、時には早足で進んだりといった危機管理もできるようになります。皆さんには僕よりもっと明確な目標を持ってレールを敷いて、その目標や夢に向かって一生懸命取り組んで欲しいと思います。「誰もが“藤川球児”になれるチャンスがあります」彼が体现していることは、プロ野球選手をめざす子供達だけではなく、すべての人に通じる。夢を持ち、自分を信じて努力を続け、沢山の失敗や小さな成功から、少しずつ変化し進化していく。決して現状に甘んじず、前進していくことで、その夢は現実のものとなる。藤川球児の夢はまだ進行形であり、これからも沢山の感動と興奮を私たちに与え続けてくれるだろう。ザナックスもまた、人々に夢と感動を与え続けられる存在でありたいと願っています。



自分を信じる心「自信」を持つことは、  
もの凄く大事なことです。  
どこかで勇気を出して踏み切って  
未来へのレールを敷くことによって  
進むべき道は明確になります。

※「藤川球児ストレート」という名の魔球(松下雄一郎著 株式会社ヨシモトブックス発行)より引用



投球前にグラブの刺繍を指でなぞり、気合いを入れる  
藤川投手。球界を代表するピッチャーとなった今も悔し  
さから学ぶ姿勢を忘れない。



## 感動No.1

感動は邪推な計算や半端な努力からは決して生まれない。

限られた人生の中で、膨大な時間を費やし

地のにじむ努力をしてきた者が、もてる力の限りを尽くし

精根つきるまで行動したその先に

想像もつかない感情が溢れ出る。

それが本当の感動と言うものだろう。

人として生まれてきたのなら

未曾有の感情を沸き立たせてみたい。

自分がどこまでできるのか

その先になにがあるのか。

誰もが願った夢をかなえられはしなくとも  
志をもって動き出せば、きっと何かが変わる。

ザナックスはスポーツを通して

本物の感動を伝えられる

「感動No.1ブランド」を目指します。